

# 巡礼者イニゴ

## 聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

塩谷惠策 SJ

32

第九幕 第3場

1523年

バルセローナ発カエタ行き船上

登場人物： 巡礼者                      イニゴ・デ・ロヨラ  
                    旅の母娘（おやこ）

【語り】 イニゴは、ロヨラでの回心以来温め、熱望してきたエルサレムの巡礼を実現すべく、ついにバルセローナの港から船上の人となりました。1523年、イニゴ32歳の年のことです。船旅は大荒れの天気となりましたが、強い追い風に乗りわずか5日でカエタの港につきました。上陸の用意をして船客たちが甲板に集まっています。

母： もうイタリアの山が見えてきたわ。思ったより早く着きましたね。

娘：ほんとに。強い風のおかげよ。でも、嵐はこわかったわ。いまにも船が沈むんじゃないかと、気が気じゃなかったわ。

母： ほとんど航海の間中 吹き荒れてましたからね。初めの何日間かは、船の揺れで、ほとんど眠れなかったわ。(隣に立っているイニゴの方を向きながら)あなたはよくお眠りになれましたか？

イニゴ：いいえ、最初の晩は波のしぶきが顔にかかってすぐ目が覚めました。2日目からは慣れてしまって良く寝ましたが。

母： これからどちらにいらっしゃるのですか？

イニゴ：巡礼の旅ですから、物乞いをしながら、まずローマに行きます。

母： そうですか。娘と私も物乞いしながらローマに行くところです。女二人の旅ゆえ道中が心配なので、娘には男の格好をさせているのですが、すぐ見破られてしまい 怖い思いをすることもありました。

イニゴ：そうですね。近くで見れば、すぐわかりますよ。声を聞いてもね。

娘： お願いです。ご一緒させていただけないでしょうか？

母： 足手まといでしょうが、よろしく願いたします。できるだけご迷惑をおかけしないよう努めますから。

イニゴ：同じ方角ですから、いっしょに行きましょう。

第九幕 第3場  
カエタからローマへの途上

登場人物： 巡礼者                      イニゴ・デ・ロヨラ  
旅の母娘（おやこ）  
青年  
イタリアの農家の主人  
兵士 A B C D E

『語り』というわけで、カエタの港に上陸後、三人と一緒にローマへの道を進み始めました。途中から一人の青年も加わり、半日の道のりを行き、夕暮時 とある村に差し掛かりました。

イニゴ：かなり長く歩きましたが、疲れていませんか？

娘： 私はまだまだ歩けます。ゆっくり歩いてくださるので助かります。

母： 私は大分くたびれました。日も傾いてきましたし、そろそろ今夜の宿を探さなければなりませんね？

青年： 僕も一緒に探しましょう。あの農家の庭に 大勢人が集まっているようですね？

娘： 兵隊さんたちみたいね。たき火を囲んで 賑やかなこと。

兵士 A： オーイ、そこの旅の方々。一寸寄ってかね一か？  
素通りってこたアねーだろー？

イニゴ：何かイタリア語で怒鳴ってますが、何と言ってるんでしょうね？

青年： 「少しここで休んで行け。一緒に飲もうじゃないか。いい酒があるよ」と言ってます。仲間に入れてもらいましょうか？

娘： そうね。楽しそうね。

母： 大丈夫かしら？あの人たち、大分酔っぱらっている様よ。

青年： ぼくたちがついているから 大丈夫ですよ。

イニゴ：あの家に場所があれば、泊めてくれるかもしれませんね？  
頼んでみましょう。

兵士 B： おお、来た来た。そうこなくっちゃ。

兵士 C： おい お若いの。あんた女子（おなご）だね？遠くにいるときは男か

と思ったよ。なんだって、ズボンなんか履いてるんだよ？いやー、別嬪だね！俺の隣に座んな。

兵士 D： あんたたち、イタリアの人じゃないね？ああそうか。バルセローナから今日着いたのか。C はエスパンヤの言葉がうまいから、通訳してもらうべえ。

兵士 C： 港からずっと歩いてきたんだろ？腹ペコだべー？いいから、どんどん食べな。ブドー酒も沢山あるぜ。

母： ご親切に、有難うございます。

【黒い使いの合唱】

イニゴよイニゴ 無分別 みすみす畏に かかるのか？  
母とむすめを オオカミの 群れに投げ込む ようなもの

イニゴ： 神よ、われらを守りたまえ。

さあ、夜も更けてきたので、我々はそろそろ寝かせていただきますよう。明日の朝、早いので。皆さん、ご馳走様でした。

農家の主人： それじゃあ、お母さんと娘さんは二階で休んでください。あなたとお連れは 馬小屋で我慢してください。

イニゴ： それで十分です。有難う。ではみなさん、お休みなさい。

母、娘： お休みなさい。

つづく